

# 帰国報告 青島日本人学校



～「青い海と緑豊かな青島に暮らす子どもたちのために」～

前青島日本人学校

現札幌市立中央中学校 保 格 論

## 1. 中華人民共和国山東省青島市の概要

### <人口・面積>

青島は、山東半島の南海岸に小さく突き出た半島の先端に位置し、黄海に面した中国国内でも名の知れた観光商業都市である。山東省に属しており、山東省の省都は済南市ではあるが、済南市よりも経済発展が著しく、山東省の重要な拠点となっている。

7つの区（市南区、市北区、四方区、李滄区、嶗山区、城陽区、黄島区）と5つの県級市（膠州市、即墨市、平度市、膠南市、萊西市）から成り、総人口は758万人（市区人口は276万人）、総面積は10654km<sup>2</sup>（市区面積は1102km<sup>2</sup>）である。

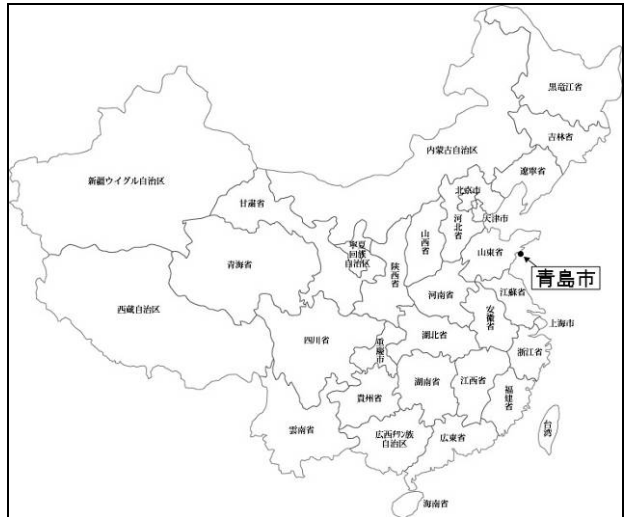
青島の風情を端的に説明するときによく用いられるのが「紅瓦緑樹、碧海藍天」である。これは西洋建築の赤い瓦と緑の木々、青い海と青い空に彩られた街という意味が込められている。歴史豊かな山東省ではあるが、青島の歴史は比較的浅く、1890年ごろ外国人が多く訪れ滞在したため、国内でも珍しい西洋建築の立ち並ぶ異国情緒漂う街となった。

現在の青島は、経済発展著しい中国、あるいは山東省の海、空の玄関口として日に日にダイナミックな成長を遂げ、西洋建築の密集する旧市街（観光文化都市）と高層商業ビル・マンションがそびえる新市街（商業都市）、そして風光明媚な避暑都市としての3つの顔を持つ魅力的な街となっている。2008年8月に開催された北京オリンピックにおいてはヨット競技の会場となり、道路やホテル等の整備も進んだ。

また、青島と言えば「青島ビール」と言われるほど世界的に有名なビールの産地でもあり、青島

ビールを飲みながら、新鮮な海の幸に舌鼓を打つのも青島ならではの贅沢な時間の過ごし方で、中国人が中国国内で一番住みたい場所の上位を常に占めるほど人気が高い場所である。

### <地理・気候>



青島は北緯37度、東経120度に位置し、黄海に面している。北温帯モンスーン気候区域の温帯モンスーン気候に属しており、気候は温暖湿潤で四季がはっきりしている。夏は湿熱多雨だが決して酷暑ではなく、秋は天高く気候は爽やかで降水量は少ない。また、冬は風が強く、気温の低い期間がやや長く続くが、厳寒というほどではない。

広大な中国ではあるが、全土で北京を基準にした同じ標準時が使用されている。そのため、太陽が南中する時刻は中国の東端では午前11時頃、西端では午後3時頃となり、約4時間の時差がある。中国の標準時は隣国である日本より1時間早い、遠くはなれた中国の西端の地であっても日本の標準時との差はたった1時間ということに変わりはないのである。

## <歴史>

青島は道教の発祥地と言われ、6000年前にはすでに人類がここで生活、繁栄していたとされており、秦の始皇帝は中国統一後、膠南市（青島市西南の衛星都市）にある琅琊台を三度も訪れている。清朝末年には、青島はすでに繁栄した町が形成されており、かつては膠澳と呼ばれていた。

1891年、清政府膠澳に防衛兵力をおいたのが青島建設の始まりで、1891年にドイツが「巨野教案」を口実に派兵、青島を占拠した。1914年に第一次世界大戦が勃発し、11月には日本が青島を占領、

ドイツに代わり軍事殖民統治を行った。1919年、中国近代史上有名な「五四運動」は、「青島を取り戻せ」がきっかけになっている。1922年、中国は青島を取り返し、商港を開くために膠澳貿易場監督庁を設立し、北洋政府の直属とした。1930年に青島市と改称したが、1938年に日中戦争が始まると日本が再び青島を占領、1945年に国民党政府が青島を接収するまで日本の領土となった。1986年、青島市は国家計画の実践リストに載り、省一級に相当する経済管理権限を付与され、1994年には、全国に15ある副省級都市の一つとなった。

## <日本と中国の関係史>

西暦	事柄	西暦	事柄
57	倭の奴の国王、後漢に遣使、印綬を授けられる	1900	義和団の乱が起こる
107	倭の国王、後漢に遣使	1915	中国に対し対華二十一箇条の要求
239	倭の邪馬台国の女王・卑弥呼が魏に遣使	1931	日本軍が柳条湖にて南満州鉄道爆破
243	卑弥呼が再び魏に遣使	1937	盧溝橋にて日中両軍が衝突
266	倭の邪馬台国の女王・壺与が西晋に遣使	1945	ポツダム宣言受諾、日本敗戦
607	倭国が小野妹子を隋に派遣	1952	日本人三名が中国を訪問、日中の文化・経済的交流の開始
753	唐から鑑真が来日	1957	岸信介内閣成立→「中共非難」「長崎国旗事件」など問題発生
1274	元寇 文永の役	1958	陳毅副総理、岸首相の中国敵視政策を非難
1281	元寇 弘安の役	1960	池田勇人内閣成立→日中間の貿易増加
1404	日明貿易始まる	1964	佐藤栄作内閣成立→中国敵視の政策
1871	日清修好条規締結	1972	田中首相中国訪問、共同声明の発表と日中国交正常化の実現
1894	日清戦争勃発	1978	日中平和友好条約の締結
1895	下関条約締結	1998	国家元首として初めて江沢民国家主席来日、日中共同宣言

## <経済・社会>

日清戦争後、青島に侵攻したドイツ軍が1898年に租借地とし、日中戦争後には日本軍が占領、第二次世界大戦後は米軍が艦隊の司令部を設置するなど、歴史の荒波に翻弄されてきた青島だった。そのような中、駐留兵士に飲ませようとビール工場が建設された青島ビールは一貫して中国の戦略的輸出商品であった。現在、中国は世界ビール生産の19%を占める世界最大のビール生産国であるが、その中でも青島ビールは中国国内占有率14%（中国第一位）を占めるグローバルブランドとなっている。また、青島を代表する会社の一つに青

島ハイアール（Haier：海尔）グループがある。1984年に創立された家電メーカーで、26年という短い期間の中で中国国内はもちろんのこと、世界でも名の知れたメーカーとして成長している。

青島港は有名な天然の良港であり、コンテナ、鉱石、原油と石炭の埠頭を備えており、450余の港湾に97の国際航路がつながっているほどの重要な拠点である。また、1992年に中韓国交正常化以来、青島市における韓国の投資は増加を続け、中国での投資額全体の約6割を占め、在住韓国人は7万人にも上っていることから「リトル韓国」とも言われ、韓国語だけでも十分生活できる環境である。

## <中国の教育>

中国の教育制度は、日本と同じく 6・6・4 制をとっているが、農村部や条件が整わない一部の大都市では小学校 5 年制をとっている。中国では中学といえば中学校と高等学校をさす。そのため、初級中学（初中）、高級中学（高中）と使い分けている。日本の教育制度と大きく違うのは、小学校でも試験によって留年したり、飛び級したりすることもある。また、環境が整っていない、労働しなければならないなどの要因から、義務教育を受けられない子どもたちがたくさんいるという問題を抱えている。

一人っ子政策の影響からか、子どもを難関中学、大学に進学させたいと思う親が多く、受験戦争が過熱化している。小学校から大学までのそれぞれに「重点校」と呼ばれる学校があり、優秀な人材を育成するために普通校と比べて予算面で優遇されており、教師の質が高く施設も立派である。多すぎる人口と限られた予算の中で近代化に不可欠な人材を育成する必要からこのような制度があるのだが、エリートに対し優遇するという姿勢は一般の学校生活の中でもしばしば見受けられ、例えば、学級代表などのリーダーになるためには成績が優秀でなければならない。

エリートになるための最難関は大学の進学であり、1年に一度行われる「全国大学統一入試」での結果のみで合否が決まる。中国の大学には日本以上に明確なランキングがあり、合格ラインは大学ごとに異なる。当然のことではあるが、重点大学では点数が高い。この「全国大学統一入試」は全国から優秀な学生を集めるためであるが、これは農村に生まれた子どもたちにも大きなチャンスを与えている。なぜなら、農村の戸籍では都市部で就職をすることができず、戸籍を都市部に移そうと思っても簡単に移すことができないのであるが、都市部へ進学した場合はその制限がなくなるからである。その反面、戸籍によって合格ラインを変え、都市部の受験生が有利になるように配慮するなど、地方からの人口流入を防ぐための措置をとっているという現状もある。

## 現地校視察（上清路小学）

青島日本人学校では、教師自身が現地理解を深めるために、毎年現地の学校を視察することになっている。とは言っても、中国の学校はつてがなければ簡単には受け入れてもらえないことから、開校以来、毎年学校交流を行っている上清路小学で授業を見せてもらった。（他に寧真海尔希望小学）

上清路小学は全校児童 1100 人、教師 72 人という、青島市の中では一般的な規模の小学校である。とは言っても、日本の小学校の規模から比べればかなりの大人数なので、全校児童がグラウンドに集まったときには人数の多さに圧倒されてしまった。人数が多いだけにクラスの人数も多く、それほど大きいとは言えない教室に 50 名弱の児童が座っているのは、やや窮屈に感じた。教科担任制をとっており、中学校と同様に毎時間先生が入れ替わるのだが、担任をするのは国語の先生が多いとのことだった。

国語、算数、英語などの授業を参観したが、中国語は日本語と比べて話すスピードが速く聞こえることもあるのか、授業では勢いのある話し方で授業を進め、一方的に説明した後、時折「对不对？」（あつてる？）、「好不好？」（良い？）などと投げかけて確認する場面が多く見られた。このような一斉指導・詰め込み式の授業ではあったが、十分工夫されており、驚いたことに、どの授業も共通してパソコン・TV モニタを活用して授業が行われていた。主にアニメーションや写真などを提示するためのものではあるが、毎時間使用しているということからコンテンツは非常に充実していると思われる。

特に印象に残った授業の一つに 5 年生の英語がある。授業はハロウィンについての内容だったが、メディアを活用してハロウィンに関するアニメーションの提示はもちろんのこと、お面や衣装を用いて活動させるなど、大変楽しい授業であった。その中で驚いたことは、授業の最初から最後まで教師が話す言葉のほとんどが英語であり、また、児童も授業中は教師の質問に対し全て英語で答え、中国語は一切話さないなど、非常に高いレベ

ルであった。1年生から英語の授業があり、5年生では週3時間も行われるのであるから、日本とは比較にはならないのは確かである。また、どの授業においても、多くの児童が堂々と自分の意見を述べるなど、積極的な態度にも驚かされた。

日本と中国の学校を比べたとき、異なる点は多々あると思うが、その中でも特筆すべきことは女性の教師が非常に多い（上清路小学では、72名中68名が女性）ということで、中学の場合でもやはり大半は女性であるということである。また、2～3校時の業間休みには全校児童がグラウンドに出て音楽に合わせて体操することや「眼の体操」をする時間、ある学校では「午睡」と呼ばれる昼寝の時間もあるなど、実際目の当たりにしたときは文化の違いを再認識させられた。

【時間割（5年生）】

	月	火	水	木	金
1	数学	国語	数学	国語	数学
2	英語	数学	国語	数学	国語
3	品德と社会	地方と学校課程	体育	音楽	地方と学校課程
4	体育	音楽	品德と社会	英語	美術
5	総合実践	美術	英語	作文	体育
6	総合実践	科学	科学	作文	科学

※ 地方と学校課程・・・学校独自の指導内容

※ 総合実践・・・日本の総合的な学習の時間と同様

中国の学校の多くは給食がない。そのため、4校時が終了すると児童は一斉に家へ帰り昼食を食べる。昼ごろの校門辺りは児童を迎えに来た保護者で賑わいの様子をみせる。中国では共働きが多いため、祖父母が迎える場合が多いようである。この上清路小学では食堂があるため、家が遠いため帰るのが困難、また、保護者が食事の用意ができないなどの場合は食堂で食べることができるようになっている。ちなみに、昼休みは11時45分から13時20分までとなっている。

中国の学校は宿題が多い。教育局の要求で宿題を出すことが決められており、学年に合わせて学習に必要な時間がかかるような宿題を出している（低学年で音読程度、中学年で30分、高学年で1時間）。しかし、テストに向けた問題も出される

ため、実際にはより多くの時間がかかるだろうとのことだった。そのことを聞いたとき、小学生の子どもがいる知人から聞いたことを思い出した。「毎日夜遅くまで宿題に追われている子どもを見ていると心配になる。でも、宿題をやっていないと先生に怒られるから仕方がないんだよ。」と。中国の教育にかける意気込みにも、かなり熱いものを感じずにはいられなかった。



上清路小学の前にて



教師のほとんどが女性



どの教科もこのように毎時間メディアを活用します



腕を重ねるのが正しい姿勢  
姿勢がピシッとしています



業間に全校児童で行う体操  
高校でも行われています



音楽に合わせて目を  
マッサージ

中国の学校は、教職員としての経験がない共産党支部から派遣された人（党支部書記）が常勤しており、校長よりも強い権限を持っている。基本的には、学校内の決定権は校長が持っているが、教職員の採用や対外的な権限は党支部から派遣された人が持っている。上清路小学においても、校長に代わって挨拶をする場面があった。

先に挙げた教員に女性が多い理由として、収入が少ないことがあげられる。就業時間以外は副業も可能なことから、家庭教師等をする人が多く、自分の学校の児童を教えることもあるようだ。終身雇用ではなく契約制となっており、年1回行われる教員評価によって給与の反映はもちろんのこと、転職・解雇もあり得るといって、かなり厳しい待遇であることは間違いない。



## 2. 青島日本人学校の概要



### <所在地>

青島日本人学校は新市街の中心から北へ3キロほど離れた閑静な高台に位置し、2008年に完成したばかりの新しい校舎である。

### <設立者及びステータス>

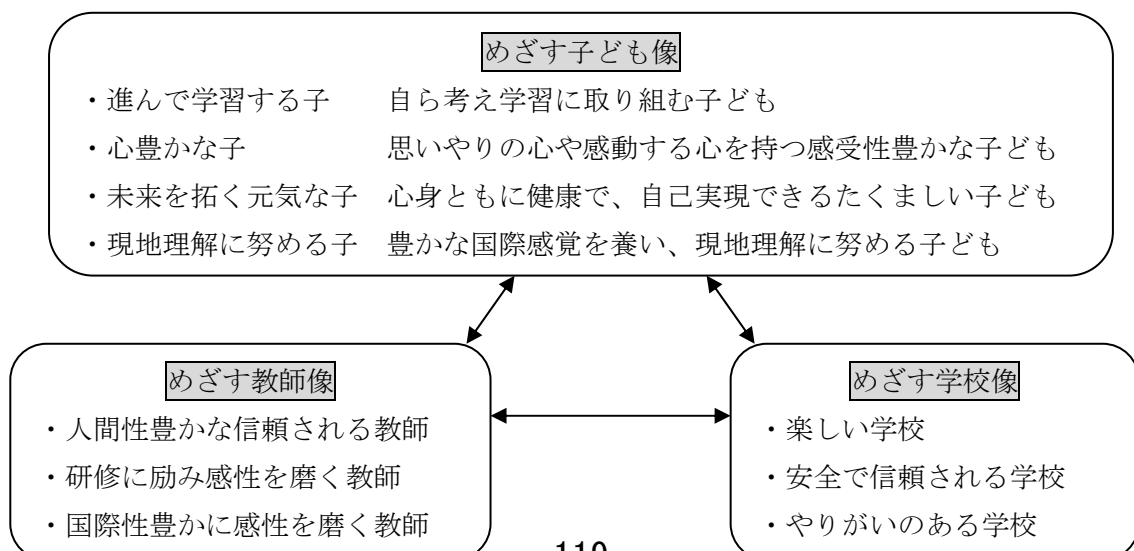
青島日本人学校は、青島日本人会によって設立され、青島市政府による認可を受けた全日制の私立学校である。青島日本人学校は、青島日本人学校運営理事会によって管理・運営されている。

### <学校の略史>

西暦	事柄	西暦	事柄
2000	青島日本人補修授業校開校	2005	青島日本人学校校舎定礎式
2004	青島日本人学校開校	2008	青島日本人学校校舎完成

### <教育目標>

「豊かな心を持ち 自ら学び鍛える たくましい児童の育成」



### <学校経営の基本>

- (1) 本校は、青島市に在留する邦人子女のための学校である。
- (2) 本校は、日本国文部科学省が告示する学習指導要領に準拠し、さらに充実する特色ある教育課程を編成する。
- (3) 本校は、中華人民共和国の定める外国人学校の運営に関する諸法規を遵守して経営する。
- (4) 本校は、青島日本人会から委嘱された青島日本人学校運営理事会によって主管される。
- (5) 本校の運営資金は、入学金、授業料、補助金、寄付金その他を持って当てられる。

### <経営の方針>

学校の教育目標を達成するために、青島ならではの特色ある教育課程を編成する。また、児童生徒が大きな夢や希望を持ち、未来を拓く気品ある校風の樹立を目指す。

<平成21年度 学年別教科等時数配当>

学部	学年	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	学活	総合	英会話	中国語	計
小学部	1年	272		136		102	68	68		102	34	34		34	34	884
	2年	280		175		105	70	70		105	35	35		35	35	945
	3年	235	70	175	90		60	60		90	35	35	60	35	35	980
	4年	235	85	175	105		60	60		90	35	35	65	35	35	1015
	5年	180	90	175	105		50	50	60	90	35	35	75	35	35	1015
	6年	175	100	175	105		50	50	55	90	35	35	75	35	35	1015
学部	学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	学活	選択	総合英会話	中国語	計
中学部	1年	140	105	140	105	45	45	90	70	105	35	35	30	35	35	1015
	2年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	35	65	90	35	1015
	3年	105	85	105	105	35	35	90	35	105	35	35	105	105	35	1015

<平成21年度 年間授業日数・学期>

- ①授業日数：200日
- ②第1学期：4月10日～7月23日
- 第2学期：8月25日～12月22日
- 第3学期：1月6日～3月17日

<平成21年度の主な行事>

【4月】

- ・入学式
- ・新入生を迎える会
- ・春の遠足



春の遠足（天主教会前にて）

【6月】

- ・運動会
- ・小学部学校交流会
- ・中学部職場体験学習



運動会  
（最高に盛り上がる全校リレー）



小学部学校交流会  
（上清路小学と本校にて）

【9月】

- ・小学部修学旅行
- ・中学部修学旅行
- ・中学部宿泊職場体験学習



中学部修学旅行（泰山にて）

【10月】

- ・中学部学校交流会
- ・持久走大会



中学部学校交流会  
（青島六十五中と本校にて）

【11月】

- ・学習発表会



学習発表会  
（3、4年生による音楽発表）

【1月】

- ・書き初め会

【3月】

- ・卒業生を送る会
- ・卒業式



卒業式

<児童・生徒数一覧>平成21年5月1日現在

	小学部							中学部				総合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
男子	6	6	4	10	7	4	37	6	4	3	13	50
女子	6	3	5	8	2	9	33	3	3	1	7	40
合計	12	9	9	18	9	13	70	9	7	4	20	90

### 3. 実際の取り組み

#### <教科>

中学部の数学と技術、及び、小学部5年生の算数を担当した。中学部は各学年とも人数は少数（最大10名・最小3名）だったため、きめ細やかな授業を行うことができた。

数学の授業では、小学校段階で学習する計算が不十分な生徒もいるので、一人ひとりがどこでつまづいているのかをしっかりと見極め、基礎学力の向上を目指す取り組みをした。3年生のほとんどの生徒は2学期が終了すると受験のために帰国することから、11月には教科書の内容を終えられるように授業計画を立てる必要があった。教科書の内容を終えると、受験する県の公立高校や私立高校の試験問題を用意、解説などをして弱点克服に力を注いだ。

技術の授業では、実習で製作するための材料を現地で調達する必要があるため、派遣1年目のときはどこに何が売っているのかが分からず、かなり苦労した。しかし、物が無いからできないとって作業の範囲を狭めるのでは子どもたちの自由な発想が生きないため、日ごろから授業に必要なものが手に入る店などの情報収集に力を注いだ。その努力の成果もあり、ほとんどの物品は現地で調達ができるようになった。

小学部との併置校ということから小学5年生の算数を担当したが、日本では決してできない貴重な経験となった。当たり前ではあるが、中学生の生徒たちはどのように学習してきたのかを単に学習の系統図を見るよりもはるかに身をもって実感することができた。

ワークなどの教材は、毎年春に日本から取り寄せたものを使用している。教具は十分にそろっているとはいえないため、立体図形や展開図などを自作して使用することもあった。



校内における研究授業会  
(中学部3年生数学)

#### <職場体験学習>

生き方指導の一環として、生徒が自己の進路や職業等について自己実現が図られるようにするとともに、勤労観や職業観を育てるために職場体験学習を行っている。生徒一人ひとりが自らの興味・関心に基づいて選択できるように、日系企業を始め、様々な職種の事業所に生徒の受け入れをお願いした。

平成21年度 職場体験学習受け入れ事業所

1	山口銀行	8	花園（日本料理）
2	みずほ銀行	9	月山（日本料理）
3	ジャスコ	10	山前（日本料理）
4	全日空	11	ルヴァンナチュラル（パン屋）
5	日本航空	12	緑源沙龍（喫茶店）
6	シャングリラホテル	13	morgan（理髪店）
7	すし一番	14	スマイル青島（雑誌社）



日本航空



全日空



月山（日本料理店）



ジャスコ



山口銀行



morgan（理髪店）

職場体験学習を行う前に選択した職業についてインターネットや本などの資料を利用して調べながら用紙にまとめ、事前準備を行った。職場体験学習当日は、一人ひとり自分の将来と重ね合わせながら働くことの尊さを実感することができた取り組みとなった。事後学習として、プレゼンテーション形式にしてまとめ、保護者の方に自分が体験したことを報告する機会を設けた。



## <宿泊職場体験学習>

平成 21 年度の新たな取り組みとして、日々の食生活に直接結びついている農業について体験し、自然の恵みや働くことの尊さを実感させ、より自分自身の進路に対する明確な目的意識を持たせることをねらいとした宿泊職場体験学習を中学部 1、3 年生対象に行った。

青島から北に車で 2 時間ほど走ると萊陽という所があり、そこにアサヒビールが 100% 出資した子会社「朝日緑源」がある。そこでは、苺やとうもろこしなどの野菜を栽培、また、数百頭の乳牛を飼育している。普段触れることのない土や植物、動物に触れられる絶好の機会となった。

1 日目には苺の定植やつるの除去作業、飼料用のとうもろこしの収穫、牛にえさをやったり糞の除去作業をしたりなど、色々な体験をすることができた。また、偶然にも牛の出産に立ち会うことができ、生徒たちは初めてみる光景に驚きと生命の神秘や尊さを肌で感じる事ができた。その後、夜遅くまで職員の方たちと質疑応答するなど、充実した 1 日となった。

2 日目は早朝からミニトマトの収穫、苺のつるの除去作業、牛乳工場見学など、最後の最後まで様々な農業を体験することができ、生徒たちからは、生涯忘れることができない思い出になったという感想が聞かれた。



苺の定植



苺のつるの除去作業



ミニトマトの収穫



とうもろこしの収穫



牛のえさやり



出産したばかりの牛の胎盤について説明を受ける

## <学校交流会>

青島日本人学校では、現地理解教育の一環として現地校との交流学习に取り組んでいる。小学部では開校以来「上清路小学」と、中学部では前年まで「青島十三中学」との交流会を行っていたが、「青島十三中学」の閉校に伴い、今年は「青島六十五中学」と交流会を行うことになった。

中国に住んでいても、現地の同年代の子とも接する機会の少ない生徒も多く、この交流学习は普段学んでいる中国語を試せる貴重な機会となっている。

[平成 21 年度の学校交流会]

### 小学部学校交流会（上清路小学）



日本人学校児童による太鼓演奏



上清路小児童による器楽演奏



中国語で質問「好きな物は何？」



日中対抗風船バレーボール



日本の折り紙を教えます



日中対抗神経衰弱

### 中学部学校交流会（青島六十五中学）



日本人学校生徒による太鼓演奏



新しい校舎を案内



漢詩の読みをみんなで練習



練習の成果を発表



#### 4. 日本人学校の存在意義

英語圏の日本人学校は、保護者の現地校志向により生徒数が減少していると聞く。中国の日本人学校は必ずしもそれには当てはまらないが、インターナショナルスクールや将来のことを考えて現地校に進学する児童・生徒がいるのは確かである。また、最近では、開校時わずか6名でスタートしてから5年で90名を越えた児童・生徒数も、現在では世界的規模な金融危機の影響で、ここ数年の児童・生徒数は横ばい状態である。

青島日本人学校は、開校当初は自前の校舎を持たず、語学学校の一部を間借りした。もともとは学生の宿泊施設だったため教室は狭く、グラウンドや体育館もない劣悪な環境だった。児童・生徒や保護者、日本人会の人たちが、「1日でも早く校舎を建ててほしい。」という願いのもと、開校してから4年半後に悲願の新校舎が完成した。完成した校舎は日本人が設計したことから、日本の校舎とほぼ同様の仕様になっているだけでなく、太陽光を利用した温水システムや地下水の温度を暖房や冷房に利用する循環システムが導入されており、エコロジーな校舎として中国で注目を浴びている。このような立派な校舎を抱えながらも、入学する児童・生徒数が増えないのはどうしようもないことなのだが、学校を運営する上で危機感があるのは当然のことである。徴収した学費をこれまでは教材・教具購入に当てていたものも、現在では学費の大半を建設費に当てなければならず、必要な教材・教具を買うことが難しくなるという状況にまでなっている。教育の質を落とさないためにも指導方法を工夫したり、教材・教具を作り出したりと教職員一丸となって日々教育の質を向上させる努力をしている。

新校舎が建設されたことから、青島における日本人学校の存在意義はますます高まったものの、前述のようなことから教育の質を下げることがあってはならない。彼の地で暮らす子どもたちが日本の学習指導要領に基づいた確かな学力を身に付けることができる学校が、これまでも、そして、これからも大切な場であることに変わりはない。

この青い海と緑豊かな青島に暮らす子どもたちのために、この重要な役割を担った学校を存続させていくためにも、派遣された教員の責任は非常に重いつくづく実感した。

#### 充実した設備が整っている新校舎



冬でも入れる屋内温水プール



武道場（柔道着は山下泰裕氏寄贈）



広い体育館



全天候型のグラウンド

この青島日本人学校に派遣された私は、日本やその他の国に住む人々へ青島日本人学校をアピールするために何ができるかを考え、様々な工夫をした。その中で、この取り組みがとても重要であることを実感したのは、ある保護者の一言である。「日本にいる私の両親がいつもホームページを楽しみにして見えています。とても感謝しています。」日本人学校に関わる多くの人々が、我々が発する情報を頼りにしていることを知ると同時に、情報発信の大切さを改めて実感する機会となった。

#### 青島日本人学校を紹介する取り組み



学校紹介パンフレット



学校紹介DVD



ホームページ（トップページ）  
ほぼ毎日更新される



ホームページ（行事のページ）  
行事ごとに行った内容をアップ

## 5. その他（日本人学校ならではのこと）

### <総領事館開館記念式典>

10月に青島総領事館が開館したことを記念し、盛大な式典が行われた。その式典の中で、「日本人学校の生徒たちに太鼓演奏をしてほしい。」との依頼があったことから、中学部生徒全員が参加して太鼓演奏を披露した。日本人学校ではこの太鼓演奏を重要な取り組みの一つとしており、運動会や学習発表会などの大きな行事ごとに練習し、披露してきた。これまでの成果が認められてこのような大きな場での演奏となったわけだが、多くの貴賓を前にしながらも、いつも通りの勢いのある演奏を行い、盛大な拍手をいただいた。

生徒にとってこのような経験は非常に貴重であり、日本人学校だからこそ味わえる機会だろう。



シャングリラホテルにて

### <避難訓練（脱北者対応）>

避難訓練はどここの学校でも行われていることではあるが、日本人学校ならではのといえば「脱北者対応」であろう。校舎は高い門や塀に囲まれ、その上には遠赤外線センサーが設置されている。また、警備員が24時間配備されており、そう簡単に入ることができない環境である。しかし、そのような警備体制でありながらも、過去に北京日本人学校に脱北者が侵入した経緯もあることから不測の事態を考え、避難訓練を行っている。

6年程前の北京日本人学校に脱北者が侵入した事件では、日本大使館附属の在外教育施設という性質があることから日本政府の介入があり、最終的には本人達が希望する国へ亡命した。しかし、青島日本人学校はそのような性質を全く持っていないため、脱北者が侵入した場合は、単なる不審者として公安に通報するしか方法がない。そのため、通用門にはハングル文字で「公安に直ちに通報する」ということを強調した掲示物を掲げている。



緊張感漂う避難訓練

### <皆既日食>

3年間の任期中、幸運にも皆既日食を見ることができた。理科の先生が「当日の天気は心配ではあるけれどもこのような機会は滅多にない。」ということで日食メガネを大量に用意してくれた。当日は絶好の観察日よりとなったが、日食を無視して授業をしても落ち着かないということで、午前中の半分は天体観察の時間となった。これも小さな学校ならではのエピソードである。

徐々に太陽が欠けていく様子はとても不思議ではあったが、児童・生徒がグラウンドで寝転んでメガネをかけて空を見上げる光景も何か異様で面白く、ニンマリしながらその様子も観察した。

太陽が一番欠けた時は驚きが最高潮に達し、真昼にも関わらず、なぜか薄暗く（青く）感じ、今まで体験したことのない神秘的な時間であった。



用意した日食メガネで観察中



欠けていく様子はとても神秘的

## 6. おわりに

日本に帰国して半年が経とうとしている今、青島での日々を振り返ってみると、本当に多くの貴重な体験ができたと改めて感じる。日本と同様の教育を海外で行うということは、物資面はもちろんのこと、環境面においても苦労することが多かったが、あれこれ考えながらも目前の問題一つ一つを乗り越えていく中で、日本人学校だからこそ味わえる苦勞なのだと感じるようになり、毎日が充実感で満たされていた。また、現地で出会った人とのつながりは私にとって非常に大きな力となった。言葉や文化、そして、歴史的な壁がある国同士の間柄であっても全くそのようなことを感じさせずに接してくれ、優しい気持ち、相手を思いやる心は日本も中国も変わらないということを感じた。

私はこの3年間で得られた知識や経験を無駄にすることのないよう、未来ある生徒たちに様々な場面で伝え、還元していきたいと思う。